



## 海外の整形外科医・学会との交流報告

### 2025 Ruth Jackson Orthopaedic Society (RJOS) Annual Meeting への参加（令和 7 年 3 月）

RJOS は 1983 年に設立された、アメリカの女性整形外科医を支援するための組織です。昨年に引き続き、RJOS Annual Meeting (San Diego) に、当委員会から長嶺里美委員、山本りさこ委員、働き方改革委員会から原仁美委員が参加しました。Annual Meeting 前日に RJOS board member との意見交換の時間も設けていただきましたので、その様子も合わせて報告いたします。

#### 1 日目 ～RJOS 幹部との意見交換会～

RJOS から現会長の Dr. Corinna Franklin、次期会長の Dr. Jennifer Weiss、Dr. Linda Suleiman、Dr. Elizabeth Lieberman、前会長の Dr. Christen Russo の 5 名が参加されました。日本の現状を第 1 回日整会女性医師アンケート(2017)の結果を用いて説明しながら、以下のトピックスについてアメリカの現状を教えてくださいました。(写真 1)

##### 1. 学生、研修医へのアプローチについて

RJOS では医学生支部を立ち上げており、学生たちは SNS を通じて RJOS を知り参加しています。アメリカでは整形外科レジデンシーのマッチングが非常に難しいため、メンターシップ制度を活用してコネクションを築いたり、また学生同士の情報交換の場として期待されています。ただし、メンターシップは全員が活用できるわけではなく、長期的な関係性を築けることは理想的ですが、必ずしも成功するとは限りません。そこで現在は「アドボカシー (Advocacy: 擁護・支援活動)」に重点を置いています。これは指導的立場にある女性医師の数が増え、電話やメールを通じて推薦や後押しを行うことが可能になったことを意味しています。また、医学生や研修医を対象とした、研究に対する賞金や奨学金制度も設けています。

##### 2. キャリアとサブスペシャリティについて

アメリカの女性整形外科医の 80%以上は子供を持ち、育児に際しては両親、シッター、住み込みのナニーなど外部の支援を活用しながらキャリアを継続しています。

サブスペシャリティの習得には、専門に特化した施設で 1 年間のフェローシップを修了する必要がある、2 領域を取得する人もいます。スポーツと手外科には認定試験があります。フェローシップのマッチングは難しいものの、多くの医師は専門領域の指導者との関係性を築いているため、レジデンシーマッチングほど困難ではありません。

女性整形外科医は小児整形や手外科を選択する傾向が強く、脊椎、関節、外傷を専門とする医師は少ないのが現状です。しかし近年は関節や外傷を専攻する女性レジデントが増加しており、特に人工関節分野のフェローシップの女性比率は 50%に達しています。女性医師が役員として活

躍している学会も増えています。

キャリアの継続に関しては、女性レジデントの離職率はマイノリティレジデントに次いで高いと報告されていますが、その実情は十分に把握できておらず、離職についての研究を進めようと準備しているところです。

### 3. トラベリングフェローについて

アメリカで手術に参加するには州ごとに医師免許が必要です。申請書類が多く、費用もかかり、外部医師が手術室に入るのは非常に困難です。ただし、別室での見学であれば可能性はあります。多くの施設では、サブスペシャルティ学会が主催する国際的なトラベリングフェローシップを受け入れており、各国から多くの見学者が訪れています。フェローシップは行く側だけでなく、受け入れる側にも学びがあり、メンター的関係を築く場にもなります。双方にとって有意義な制度ですから、ぜひ行き来できる関係性を作りたいです。

今回の意見交換会の間、こちらで提示した第一回日整会女性医師アンケートの回答率（53.3%）の高さに、たいへん驚かれていました。アメリカでの同様のアンケートの回答率は15%程度と低く、現状把握の難しさを感じられましたが、私たちの質問に丁寧に答えていただきました。今後もこの関係を継続し、さらに発展させるための有意義な機会となりました。



（写真1）左から Dr. Elizabeth Lieberman、Dr. Christen Russo、Dr. Linda Suleiman、  
長嶺委員、Dr. Jennifer Weiss、山本委員、Dr. Corinna Franklin、原委員

## 2 日目 ～RJOS annual meeting 2025～

今年は“Celebrating Excellence”をテーマに Hard Rock Hotel San Diego で開催されました。その概要について報告いたします。（写真 2）

### 1. Research Symposium

総会に先立ち、女子医学生による 10 演題の研究発表が行われました。臨床研究が主体でしたが、「人工膝関節全置換術後に女性が男性よりも多くの痛みを経験する」、「整形外科医および研修医におけるインポスター症候群の経験とスコアに関連する因子」（インポスター症候群：成功や成果を上げているにもかかわらず自分はそれに値しないと感じる心理状態）など興味深い発表がありました。

なお、口演発表はありませんでしたが、会場後方にはポスター演題も展示され、活発な意見交換が行われていました。

### 2. 招待講演

年次総会では、元アメリカ女子ナショナルサッカーチームのキャプテンで現在は実業家の Leslie Osborne 氏による招待講演が行われました。引退後はスポーツキャスターを務める傍ら、女子プロサッカーチームの設立・運営、美容ブランドの立ち上げなど、多方面で活躍されています。現役サッカー選手のご主人との間に 3 人の娘さんがいらっしゃいます。

講演では大学サッカーチームやナショナルチームでのご自身の経験をもとに、「リーダーシップとはチームワークである。声を張り上げる必要はなく、常にポジティブであったり、完璧な手本であったりする必要もない。」と述べ、共感力や、仲間の長所を引き出すこと、明確なコミュニケーション、率先した行動の重要性を語られました。また、「真のリーダーとは、困難な状況に直面したときこそ立ち上がり、逆境を乗り越えて成長できる存在である。」と強調されました。（写真 3）

### 3. パネルディスカッション

最後に“Celebration of Excellence”と題したパネルディスカッションが行われ、現在リーダーとして活躍する 4 名の女性医師が登壇しました。

Michelle Caird：ミシガン大学整形外科主任教授。専門は小児整形。POSNA（北米小児整形外科学会）で 2 人目の女性会長に選出。

Barbara H. Jung：カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部長。専門は消化器内科。人と交流することを楽しみとし、多様な視点を大切にしている。

Valerae O. Lewis：テキサス大学 MD アンダーソンがんセンター整形外科初代主任教授。専門は腫瘍。5 年前に重度の脳梗塞を発症したが、リハビリを経て現場復帰。

Constance R. Chu：スタンフォード大学教授、研究担当副学科長、関節温存センターディレクター。ACL・半月板・軟骨修復を専門とし、変形性膝関節症の幹細胞治療の議論をリードした研究者。

司会の Dr. Kali Tileston から、チームの多様性とインクルージョンの確保、チーム作り、リーダーの資質やビジョンといったテーマが示され、会長の Dr. Corinna Franklin を交えて議論が交わ

されました。さらに会場の学生との質疑応答の後、プログラムは終了しました。(写真4)

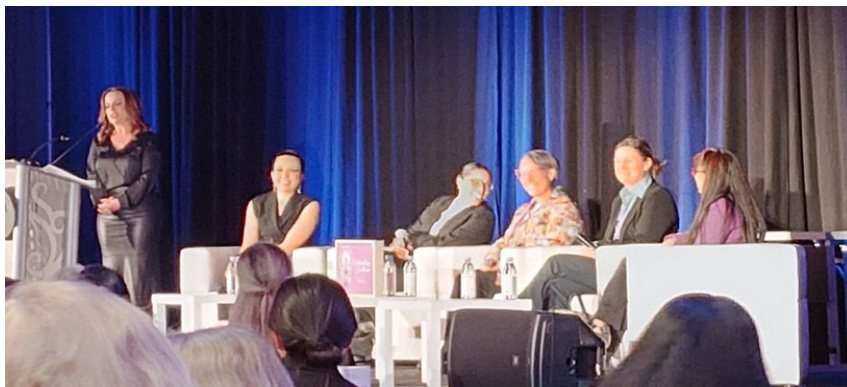
アメリカでは女子医学生の増加に伴い、これまで女性が少なかった関節外科や外傷を志望する女性整形外科医が増加しています。自身の進路のためにコネクションを築きたい若手と、それを支援する RJOS メンバーの熱気が強く感じられる総会でした。



(写真2) Hard Rock Hotel San Diego の会場風景



(写真3) Leslie Osborne による特別講演



(写真4) 左から司会の Dr. Kali Tileston、会長の Dr. Corinna Franklin、Dr. Valerae O. Lewis、  
Dr. Michelle Caird、Dr. Barbara H. Jung、Dr. Constance R. Chu

(文 山本りさこ)